

# 鳥海イヌワシみらい館通信

Vol.17 2016年 新年号



鳥海イヌワシみらい館  
マスコットキャラクター  
「ワッシーくん」

バードウォッチングへの誘い⑱ 「冬の大型猛禽類」

「鳥海山南麓（山形県酒田市草津）で確認されたイノシシ」

『イノシシ（2015年12月）』酒田市にて

# 「冬の大型猛禽類」

大型の猛禽類たちが観察できるシーズンがやってきました。観察できるといっても、個体数の少ないオオワシ、オジロワシはいつも姿を見せてくれるものではありません。冬のごく短い期間にしか会えないこのワシたちが、どうしてここにいるのか、現在どのような危険にさらされているのかといったことを知れば、出会えた時の感動も倍増すること間違いなしです。



「オオワシ」

撮影：高橋雄成氏

「オジロワシ」

撮影：長船裕紀氏

オジロワシ

学名 *Haliaeetus albicilla*

英名 White tailed Sea-eagle

翼開長 ♂200cm～♀230cm

2mを超える大型のワシです。シベリアを含む北極圏を繁殖地としています。日本でも北海道でのみ繁殖が確認されています。名前の通り真っ白な尾羽が特徴ですが、体の割に尾羽は小さいです。環境省レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類。天然記念物。国内希少野生動植物種。

←オオワシ

学名 *Haliaeetus pelagicus*

英名 Steller's Sea eagle

翼開長 ♂220cm～♀250cm

白と黒のはっきりした体色と、黄色くて大きなクチバシが特徴です。世界での生息数はおよそ5200羽と言われており、絶滅が危惧されています。環境省レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類。天然記念物。国内希少野生動植物種。

## オオワシ、オジロワシはどうしてこんなに寒い日本にいるの？

オオワシ、オジロワシが繁殖期に暮らすシベリア地方は、冬の気温がマイナス30℃にも達する極寒の地。川面が氷ってしまえば、エサとなる魚をとらえることはできません。また、もう一つのエサであるカモたちも越冬のために日本にやってくるので、シベリア地方にはワシたちが食べる物が少なくなってしまいます。日本も確かに寒いのですが、海岸や川が氷るほどではなく、エサとなる魚がいたりカモ類も豊富に越冬しますので、それを狙っているのですね。



## オオワシ、オジロワシの生存を脅かすもの

### ①開発による大規模な生息地の破壊

大規模な開発などによって、ねぐらとなる場所や、繁殖地の環境が破壊（土地造成、道路建設、河川開発、森林伐採等）されています。これは日本だけでなく海外の繁殖地の問題でもあります。



### ②鉛弾による鉛中毒



オオワシ、オジロワシを猟銃で撃つことは法律で禁止されているのに、どうして鉛弾が生息数の減少に影響しているのでしょうか。それはオオワシ、オジロワシが死肉食の習性も持ち合わせているからです。鉛弾で撃たれたシカやカモなどの死肉に残った鉛弾を食べることによって、鉛中毒になるケースが非常に多いのです。これまでに150羽以上の死亡例が報告されています（猛禽類医学研究所より）。

### ③バードストライク

バードストライクとは、飛行機や車、高層ビルの窓などに鳥がぶつかってしまう事故です。近年建設が進む「風力発電」も、原因の一つになっています。特にオジロワシはプロペラと同じ高さを飛行するためにバードストライクに遭遇する確率が高いようです。これは「モーションスメア」と呼ばれる現象で、早く動くものに近寄れば近寄るほど物体を認識することが難しくなります。こうした現象がもとで、現在までに43羽のオジロワシが風力発電施設へぶつかって死んでいることが報告されています（Strix Vol.31 浦達也『風力発電が鳥類に与える影響の国内事例』）。



# 庄内の動物情報コーナー

今年の冬将軍は弱いのか！？冬将軍ならぬ冬足軽。いつまでたっても雪が降りません(12月の庄内地方市街地)。カメムシが大発生すると大雪になるという言い伝えがありますが、当館では今年はカメムシが多く発生したので冬本番はこれからということでしょうか。積雪地のみなさん、運転、除雪作業に気を付けてください。積雪地でない地域の皆さんも急な降雪には注意しましょう。備えあれば憂いなし！秋から冬にかけての動物達です。



2015/10/1 「クロサギ」 遊佐町  
魚を食むクロサギもまたハンターなのです。白いサギと比べると、黒い姿はワイルドさが増すような気がします。  
撮影:渡会様



2015/10/5 「ハクチョウ(初飛来)」 酒田市  
「ハクチョウの鳴き声」で、環境省の残したい日本の音風景100選にもなっている最上川スワンパークへ、今年もハクチョウが飛来しました。  
撮影:阿呆撮様



2015/11/22 「サケ」 遊佐町  
立派な鼻曲がりのサケですね！水中カメラで撮影してくれました。いけない！よだれが！  
撮影:ナッシーくん



2015/11/23 「ハクチョウ」 酒田市  
東京都から旅行で来たお客様が、最上川河口のスワンパークで撮影してくれました。そう、最上川はハクチョウの聖地。日本有数の飛来地になっています。撮影:東京都 大川様



2015/11/28 「ハヤブサとカラス」 酒田市  
ハヤブサが止まった電柱はカラスのお気に入りの場所だったようで、しつこくモビングしていたそうです。  
撮影:ナッシーくん



2015/11/28 「オオバン」 酒田市  
水面を泳いだりするので、黒いカモの仲間？と思いきや「クイナ」の仲間。額の白い部分は羽毛ではなく肉質の額板です。最上川河口鳥獣保護区でエサを食べている様子。撮影:阿部一彦様



2015/11/29 「カジカ」 遊佐町  
川の土手の上(陸上)に落ちていたそうです。救命措置をとって川にもどしてやったそう。カジカの恩返し来るかな？少し先に視線をやると、ある鳥の存在が！撮影:ナッシーくん



2015/11/29 「カワガラス」 遊佐町  
前出のカジカの続き。  
お前か！お前がやったのか～！  
撮影:ナッシーくん



2015/8/21 番外編「ミサゴ」 山形県舟形町  
橋の橋梁に止まる猛禽類を見て「何だろう？」と、車を路肩に寄せて車内からスマホで撮影したそうです。その距離3mほどといったところでしょうか？撮影:森島様



2015/9/4 「アオバト」 神奈川県大磯  
アオバトの乱舞！この写真に入っているだけでも40羽以上！淡い緑色の羽毛が美しいですね～。撮影:こまたん 金子典芳様



2015/11/3 番外編「ミズカマキリ」  
新潟県村上市  
最近めっきり見なくなったこの水生昆虫。カマキリとつきますが、実はカメムシの仲間です。臭いにおいを出すのかな？撮影:ナッシーくん



2016/1/4 番外編「ハイタカ」  
神奈川県平塚市  
ベニマシコの美しい鳴き声に聞き入っていると、急に警戒の鳴き声に変わったそうです。ふと上を見上げると飛んでいたのがこのハイタカ！  
撮影:こまたん 金子典芳様

# 鳥海山南麓（山形県酒田市草津）で確認されたニホンイノシシ

文・写真 長船裕紀

イノシシを 2015 年 12 月 21 日、山形県酒田市、鳥海山南麓 500m 付近で撮影したので報告します。日本には 2 亜種（ニホンイノシシ、リュウキュウイノシシ）が生息し、今回撮影したイノシシは分布上では亜種ニホンイノシシ *S. scrofa leucomystax* にあたります。



図1. 撮影したイノシシ

2015 年の 12 月中旬、鳥海山南麓にも降雪し、雪上に残された足跡を観察していたところ、ニホンカモシカとは若干の違いを感じさせる足跡を見つけました。一般的にニホンジカやカモシカと比較すると副蹄が低い位置にあるため、副蹄が足跡として残りやすいこと、外側に開いているなどの違いがあります。そこで自動撮影カメラを設置し、動物の撮影を試みたところ、1 週間後の 12 月 21 日にイノシシの撮影に成功しました。

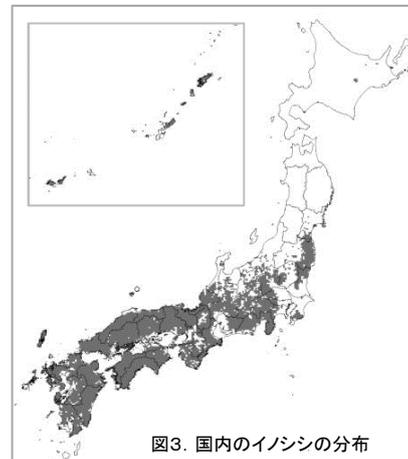


図3. 国内のイノシシの分布



図2. イノシシの足跡(雪上)

山形県版レッドデータブック（2003）によると、山形県では明治時代末期を最後に絶滅したといわれていました。しかし、2000 年頃から東北地方では福島県や宮城県で分布が拡大するとともに、イノシシによる農作物被害の増加も報告されるなど社会問題にまで発展しています。そんな中、山形県でも平成 14 年に天童市で狩猟捕獲されて以降、相次いで捕獲されるようになり、平成 25 年以降急激に増加、ついに平成 26 年度に初めて捕獲数が 100 個体を越えました。これに伴い農業被害も発生しており、今後も分布域の拡大及び被害面積も

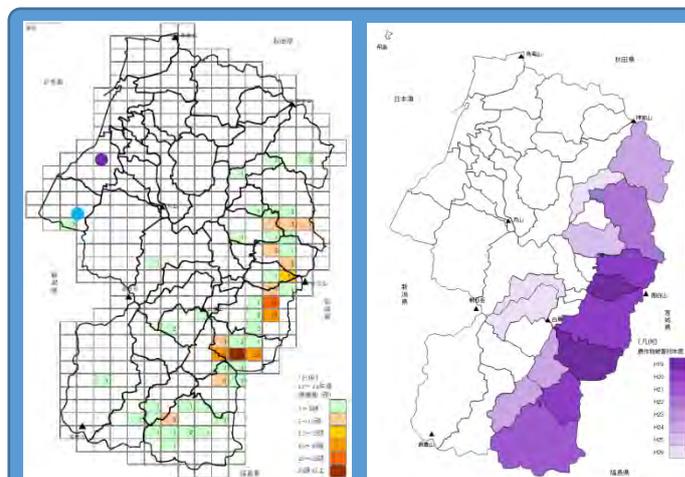


図4. 山形県におけるイノシシの捕獲位置メッシュ図(左:H13-26 年)と農作物被害発生市町村(右:H19-26 年)

引用:山形県みどり自然課

増大することが予測されることもあり、現在山形県ではイノシシ管理計画の策定が進められています。山形県みどり自然課によると平成 28 年 12 月現在、酒田市においてイノシシが撮影された情報はこれまでにないようです。先ほど述べたように、福島県等で増加するイノシシには、特に東日本大震災後に家畜のブタと交配したイノブタが確認されており、拡大するイノシシには遺伝的に純粋な個体ではないイノシシも含まれている可能性も高く、山形県で確認されるイノシシも例外ではありません。

かつて、山形県においてイノシシが衰亡した理由は定かではありませんが、江戸時代から明治時代にかけて土地利用が拡大したことや狩猟圧、豚コレラの流行などによって東北地方の殆どの地域で絶滅していったようです。長いスパンでとらえると、一度絶滅した野生動物が長い年月をかけて回復しつつあると考えるか、農作物被害をもたらす害獣の侵略と捉えるのか議論のわかれるところですが、今後の動向に注目したいと思います。

## 【引用・参考資料】

- 山形県. 2003. レッドデータブックやまがた 山形県の絶滅の恐れのある野生動物
- 環境省. 2010. 特定鳥獣保護管理計画作成のためのガイドライン (イノシシ編)
- 山形県みどり自然課. 2015. 山形県イノシシ管理計画 (案) 2015 年 12 月版 (素案)

# イベント開催報告

## ○猛禽類観察会「葦原の猛禽～チュウヒ～」開催しました！

11月21日(土)、野鳥観察入門「葦原の猛禽～チュウヒ～」と題して、身近に生息する絶滅危惧ⅠB類「チュウヒ」を対象にした観察会を開催しました。講師は日本野鳥の会山形県支部長の築川堅治さんです。当日は秋晴れの下、最上川河口にある国土交通省が管理する小牧川水門を特別に利用させていただき観察をしました。

開始してすぐに「ハヤブサ」が川岸の枝に止まりました。その後、大型猛禽類の「オジロワシ」が川の中州から海岸方面へ飛んでいくところを観察できました。また「シジュウカラガン(絶滅危惧ⅠA類)」も1羽だけ飛んでいるのを見ることができました。講師の築川さんは、解説アイテムを使って楽しく解説をしてくださいました。参加者も興味深く楽しいお話に耳を傾けていました。

この日は、「チュウヒ」の姿を見ることはできませんでしたが、河川敷にわずかに残る葦原を見ながら、湿地環境の保全の重要性を知っていただき、講師の軽妙なトークと解説で、終始笑いの絶えない観察会となりました。参加してくださった皆さん、講師の築川堅治さんありがとうございました。

後日、観察会参加者数名より、参加してみたの感想や、お礼の手紙をいただきました。こうした参加者の声はスタッフも喜びを感じますし、今後の運営に励みになります。ありがとうございました。

### 【この日見られた鳥】

トビ、ノスリ、ハヤブサ、オジロワシ、ハシボソガラス、ヒヨドリ、ムクドリ、キジバト、アカゲラ、モズ、ツグミ、カワラヒワ、ハクセキレイ、スズメ、ホオジロ、カワウ、ダイサギ、アオサギ、マガモ、ミコアイサ、カルガモ、コガモ、シジュウカラガン、ホシハジロ、カンムリカイツブリ、オナガガモ、セグロカモメ、スズガモ、オオハクチョウ、コハクチョウ



最上川の土手を歩きながら観察



オジロワシ



シジュウカラガン

## イベント情報コーナー

### 猛禽類観察会 「冬のワシ・タカ探し」

この時期にしか観察できない大型の猛禽類たちを観察します。ラムサール条約登録湿地である下池に集まる水禽達も観察しましょう。

期 日 平成28年2月6日(土)  
時 間 9:00~12:00  
場 所 大山下池(鶴岡市)  
定 員 先着15名  
参加費 一人300円(保険代・資料代)  
講 師 宮川道雄(鳥獣保護区管理員)  
持ち物 双眼鏡(貸出可)、防寒着、飲み物、マイコップ

お申込み・お問合せ TEL 0234-64-4681(鳥海イヌワシみらい館)  
E-mail: moukin@raptor-c.com  
締切 2月4日(木) 17:00まで(土日は休館となります)



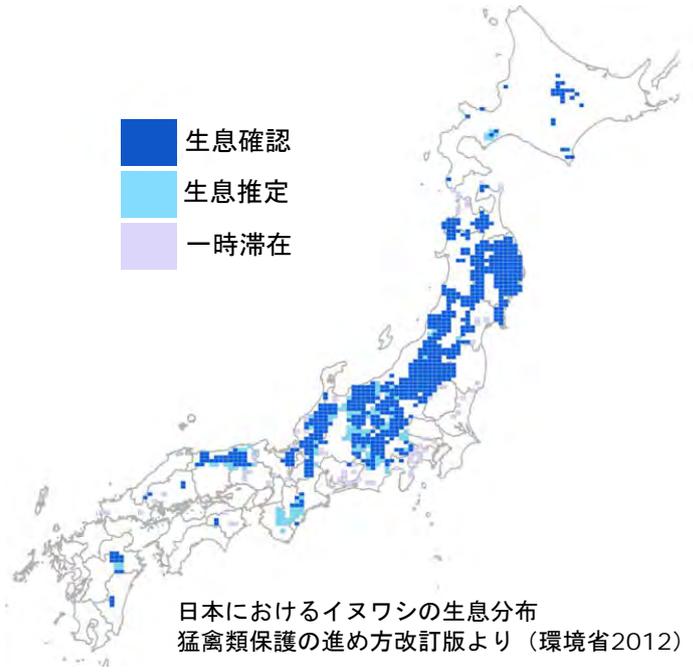


# イヌワシってどんなワシ? ⑮ 「イヌワシの生息数」

ここ猛禽類保護センターには「鳥海イヌワシみらい館」という愛称がついていますが、イヌワシって何?と思う人や図鑑でしか見たことがない人もいます。そこでシリーズ15回目は「イヌワシの生息数」について紹介します。

前回の記事で、イヌワシが環境省レッドリスト(2012)において「絶滅危惧種Ⅰ類」であり、絶滅危険度の高いグループにカテゴリーされていることを紹介しました。2002年版「レッドデータブック」ではイヌワシの日本国内での推定生息個体数は400~500羽と記載されており、最新の2014年版レッドデータブックでは650羽とされています。この数値だけを聞くと「なあ〜んだ! 生息数が増えてるし、まだ全然大丈夫じゃないですか!」と思いきや、これには理由があって、生息数が増えているのは実際に生息個体が回復したことによるものではなく、これまで未調査地があったことや、調査で使用する機器の進歩、技術の進歩から調査の精度が向上したことによるものです。また、この650羽という生息個体数は、種を維持していくためにはもうギリギリの数で、決して安心できる数ではないのです。

さて、レッドデータブックで公表している、イヌワシの国内生息個体数「650羽」という数について疑問を持つ人もいないのでしょうか。



野生生物であるイヌワシは、人間のように戸籍、出生届や国勢調査などあるわけではありません。個体別の特徴も判別は不可能だと思えます。さらに空を自由に飛行するので、どこのなわばりのイヌワシなのか把握することは容易ではないはずと考えますよね。しかし留鳥として定住性のあるイヌワシは、ペア数を把握することはある程度可能で、1997~2001年の希少猛禽類調査報告書では、日本国内に留鳥として「なわばり」を持って暮らしているイヌワシのペアが、少なくとも260組いることが明らかになっています。ということは520羽は確実に生息しているという事になり、これになわばりを持たないで暮らしている、非繁殖個体の推定生息数を加えて650羽という数が導き出されているのです。

皆さんが疑問を抱く通りこの650羽という数はおおよその数であり、1羽単位での正確な実数を言える報告は存在しないのですが、それでもイヌワシは数ある野生鳥類の中で、もっとも生息数が把握されている鳥でもあるのです。



Illustrated by Masami Tsuno  
©鳥海イヌワシみらい館

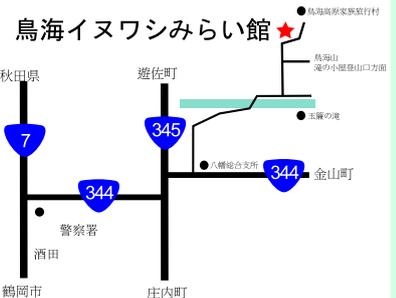
## 編集後記&施設情報

### 鳥海イヌワシみらい館 1月~3月の開館情報

開館時間・・・9:00~16:30  
入館料・・・無料  
休館日・・・1月、2月の毎週(火、土、日)(祝日)  
3月は毎週(火)が休館  
臨時休館日はホームページにてお知らせします。  
ホームページアドレス : <http://www.raptor-c.com/>

### 猛禽類保護センター

〒999-8207  
山形県酒田市草津湯ノ台71-1  
TEL 0234-64-4681 FAX 0234-64-4683  
E-mail: moukin@raptor-c.com



鳥海イヌワシみらい館通信  
Vol.17 新年号

発行: 猛禽類保護センター活用協議会  
(事務局 鳥海イヌワシみらい館内)

#### 普及啓発担当

いよいよ来年は酉年。年男です。今年はリオオリンピックに海のイベント等盛りだくさんかも(本)

#### 事務局

2015年12月はドカ雪に遭ってません。たまには楽ちんな冬を過ごしたい!(村)

#### 自然保護専門員

リーオ!リーオ!リーオ!リーオ!!(長)

#### 鳥海南麓自然保護官

2016年もよろしくお願ひします!(鎌)